

【深田貴美子の活動報告】

- ②月 12日 建設委員会
 13日 外環道路特別委員会、
男女共同参画市民会議傍聴
 14日 議員研修会@府中の森
 15日 『Make-A-Wish of Japan』
難病児支援コンサート参加
 16日 市民公開講座・樋口恵子先生
『少子化社会に望まれる施策』
 17日 武蔵野消防団第二分団
自主訓練@東町公園、
『がん医療シンポジウム
——Drug Lag』参加
 19日 むさしの外環協議会
 20日 東部福祉の会10周年記念
江見康一先生講演、
ボランティアつくしんぼの会
情報交換会参加
 26日 本会議、施政方針ほか
 28日 本会議、代表質問
 29日 本会議、一般質問

- ③月 1日 ジモッピーの会
 3日 本会議、一般質問
 5日 総務委員会
 6日 文教委員会
 7日 厚生委員会
 8日 老壮大学作品展見学
 10日 建設委員会
 11日 外環道路特別委員会、
むさしの外環協議会
 12日 長期計画調整計画全員協議会
 13日 本会議、予算特別委員会
 19日 第三中学校卒業式参列、
武蔵野開発公社評議委員会
 25日 本宿小学校卒業式参列
 27日 本会議、予算特別委員会
 審査報告ほか、広報委員会
 28日 武蔵野市民社会福祉協議会
評議委員会
 29日 むさしのミナタウン見学
 30日 武蔵野消防団第二分団
消防車納車式

「A」 警戒態勢二段階、
最大40名で即応。

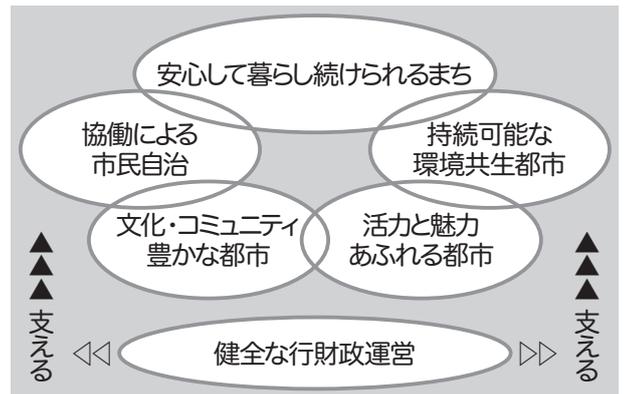
防災情報システムにより、市内または近隣在住者中心の防災課で、携帯メールなどでの参集体制を整備中。最新情報をもとに、第1次から三段階、最大で40名規模の警戒態勢を防災安全部長の判断で稼働する。

——残念ながら、避難準備情報

などを発令する意思決定のガイドラインは、今回の答弁では明示されませんでした。今後の課題として追いたいと思います。

◎新年度施政方針

平成20年度の施政方針では、
 邑上市長から「市民の笑顔を未来へとつなげるまちづくりを目指して」を基本的な考え方として、6つの柱が示されました。



詳しくは、市報（2008年3月1日号）または以下のURLにてご覧下さい。
<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/72/00007267.html>

◎予算の概要

この予算をひとことで評すれば、「ズバリ」再起動！武蔵野の予算でなければなりません。公共施設保全、上下水道整備、公園整備、道路新設改良、放置自転車対策など、地味ではありますが公共が担うべき行政サービスを再構築する意気込みを感じ

じる予算内容となりました。昨年度の「武蔵野市事務事業・補助金見直し委員会報告書」を受け、行政評価・補助金が見直されている点は期待できます。また「持続可能な環境都市」を目指す試みとして、吉祥寺に設置する「トイ・ニースト」も注目です。そして「食育」という教育的観点重視した中学校給食が、いよいよはじまります。

<http://www.city.musashino.lg.jp/cms/guide/00/00/72/archive/7266-1.pdf>

◎フカダの視点

「サプライム問題」にはじまる金融不安や「構造改革」による税制、あるいは年金、医療介護、福祉など社会保障制度の変更など、私たちの生活は「先が読めない！」という不安に包まれていきます。だからこそ、いま私たちの生活に密着した「最後のよりどころとしての自治体」の責務が問われています。

武蔵野市の課題は大きく二つ。ひとつは「ファシリテイト・マネジメント」公共施設の維持・保全です。人と同じく「まち」も老

います。今後の再構築が必要な基盤整備（上下水道、クリーンセンター）建替え、学校耐震補強、公共施設建替えなどは周期的な課題となります。バリアフリー化、省エネルギー改修、アスベスト撤去などを含めた「ファシリテイト資産」の計画的な維持と保全は、都市再生の要です。もうひとつは、武蔵野市民が培ってきた市民活動の「コンテンツ」をつなぎ、市民と行政の協働で「支えられ感」のある地域福祉の充実を実現することです。特に、子どもたちが「武蔵野で育つてよかった！」と思える成長期を過ごせることが大切です。子どもたちは、家庭、学校、地域のなかで育ちます。年間で千人弱しか産まれない武蔵野市の子どもたちの成長を応援するため、さらなる環境整備と教育支援が必要です。

まちづくりは人づくり。だから Let Kids Laugh!! なのだ。
 ——以上、ご報告いたします。
 深田貴美子

5月13日の会



《いっぽいっぽ通信》



2月末から3月末にかけて行われた2008年の第1回市議会定例会では「平成20年度予算特別委員会」が開催され、深田は初めての予算委員として新たな年度の一般会計、特別会計の審議に参加しました。また、それに先立っての一般質問では、市の防災体制について取り上げました。

◎議会報告

今回の一般質問では、武蔵野市における危機管理体制の現状について質問しました。

2007年11月に報告された『武蔵野市民意識調査』では、6割を超える市民が「災害に強いまちづくり」を重要課題と認識しているにもかかわらず、それに対する「満足度」はわずかに3割ほどであることが明らかになっています。

一般に「災害弱者」といわれる「高齢者・障がい者・乳幼児・子ども・女性」は、災害の際に自力で適切な行動が取りにくいだけでなく、罹災後の避難生活や住居、生計の再建にも大きなハンディキャップのあることが、阪神淡路大震災後の研究からも指摘されています。

避難生活においては「暖房設備のない避難所で、寒さと栄養不良のため多くの高齢者が肺炎に罹ったり、介助者不足のため避難所にいられず、壊れかけた自宅に戻っていった身体障害者が少なくなかった」と聞きます。また「視聴覚障害者や外国人には、配食の知らせをはじめ、罹災証明書や仮設住宅への入居な

ど震災関連情報が届きにくく不利益を被っていた」ことも指摘されています。

災害時には、なおいっそのこと、社会的な弱者に対しての配慮が必要です。

しかし、暗黙のうちに「成人・男子・健常者」を想定したような「必要最低限度の被災者対策」については、見直す必要があるのではないのでしょうか。

[Q] 一時集合場所などの整備は？

市は災害後3日間のうちに避難所を開設する、としています。その際にはまず「被災状況などの評価を完了したうえで避難所を開設する」と規定されています。一時集合場所など避難所関連の耐震強度は、十分に保証されているのでしょうか？

[A] 順次、補強工事を実施していく。

本市の地域防災計画では、市内の小・中学校が18カ所、都立武蔵野北、武蔵高校を合わせて20カ所を指定している。市立小・中学校のうち、昭和56年の新耐

震基準以前に建設された施設については、必要な耐震性能を確保するよう、順次耐震診断、補強工事を実施している。昭和60年前後に一度補強を行っているが、昨年度、現行基準で再診断した結果、再補強がまた必要ということになり、平成20年度以降、順次補強工事を実施していく予定である。

[Q] 予測可能災害への警戒態勢は？

地震とは異なり、水害など予測可能な災害の接近時には、それに対応する警戒態勢が必要です。2004年の台風23号（死者95名、行方不明者3名、負傷者52名）では、地域住民が「避難指示」を聞き取れないなどの事態が発生し、そのために避難行動が間に合わず、人的被害の拡大を招きました。

この教訓を踏まえて、その後市内閣府では、災害避難の新しいガイドラインである「避難準備情報」を打ち出していますが、本市における避難指示、避難勧告、および避難準備情報発令のガイドラインは、どのようになっていますか？